

# 昭和55年度定期総会開かる

# 三翠化学工業

(題字は稲川先生)

第13号  
昭和55年9月30日発行  
三翠化学工業  
津市上浜町1515  
三重大学農芸化学科内  
電話/津(0592)32-1211  
振替/名古屋59345  
印刷/株式会社あるむ

## 温泉につかり浴衣がけで 七クラスの合同クラス会を基盤に

今年にはラックスムードで総会を開こうとの方針のもとに、担当理事が種々の候補地を考えた末、白羽の矢を立てたのが、青山高原の山々に囲まれ、染まるような青葉の中に点在する神原温泉であった。そのような経緯から、いつものお堅い記念講演は行わず、代りに谷川のせせらぎとカシカの声を聞きながら、全員一堂に会してビールパーティを行ない、ついで、各クラス会には旧友と共に一夜を明かした。

午後五時三十分より、当温泉地では最大と言われる神原館において、恩師の滝基次先生、松嶋欽一先生、熊沢善三郎先生、柏村直樹先生をはじめ、約百名の会員諸氏に出席していただき盛大に行なわれた。

最後にこの紙面をかりて、総会担当理事の方々の御努力に深く感謝いたします。



大広間での総会風景(田中完爾氏写す)



一堂に会してのビールパーティ(田中完爾氏写す)

昭和54年	4月20日	役員会(第1回)
	5月21日	役員会(第2回) 評議員会(第1回)
	5月27日	基金券金委員会(第1回)
	6月25日	役員会(第3回)
	6月29日	基金券金小委員会
	8月24日	役員会(第4回) 評議員会(第2回)
	9月1日	会報第11号発行
	12月10日	基金券金小委員会
	12月17日	役員会(第5回)
昭和55年	1月26日	基金券金委員会(第2回)
	3月31日	会報第12号発行

(学内役員・幹事会7回実施)

昭和55年	5月2日	役員会(第1回)
	5月17日	評議員会(第1回)
	5月17日	総会、総会パーティ、クラス会(神原温泉・神原館)
	6月	役員会(第2回)
	6月	基金運用委員会
	8月	会報第13号発行
	10月	役員会(第3回)
	12月	役員会(第4回)
	12月	基金運用委員会
	12月	評議員会(第2回)
昭和56年	3月	会報第14号発行
	3月	役員会(第5回)

(学内役員・幹事会随時)

収入の部	前年度繰越	70,257円
	会費	504,000
	雑収入	64,300
	●計	638,557
支出の部	会報印刷費(11,12号)	260,000
	郵送通信費	184,800
	会議費	117,005
	事務費	11,655
	振替手数料	9,915
	三重県連絡協議会負担分	20,000
	●計	603,375
差引残高		35,182

収入の部	前年度繰越	35,182円
	会費	820,000
	利息	5,000
	●計	860,182
支出の部	会報印刷費(13,14号)	350,000
	郵送通信費	250,000
	会議費	100,000
	事務費	100,000
	支部設立補助	20,000
	設備費	40,182
	●計	860,182

## 東海親睦深める数々の催し 第二回総会を盛大に開く

例年になく冷夏で、オロオロとしている内に、もうすっかり秋も深まってしまいました。皆様には如何お過ごしでしょうか。

東海支部の近況をご報告します。四月十三日に第二回総会を持ちました。タテの親睦を図ろうとを合い言葉に、二年

前に発足しました「東海支部」としては、着実にその実効をあげてきました。

ゴルフコンペ(二回開催)では、グリーンの初体験者が、どうしても二〇を切れなくて余所のコンペには出にくい人が、和気あいあいのびびりとプレーができました。

家族ボーリング大会(二回開催)では、家族ぐるみのお付き合いの場になりました。

## 田川亮三知事出馬

田川三重県知事はさる七月の三重県議会において、来る十一月に予定されている知事選への出馬を宣言した。

同氏はいうまでもなく、わが三翠の誇るべき同志であり、昭和四十七年十二月に初当選し、

行政のエキスパートとしての力量は、安心して三重県をまかせられる所以でもある。今回の出馬にあたっては、すでに百をこえる各種の県内諸団体の推せんを受けており、七月七日の出馬表明はその時点で推せん団体が五十五になったので、景気よくGO、GO(進め、進め)ということで大安吉日の同日を選んだということである。

わが三翠化学会も同窓の田川氏のこれからの立場に深い関心と広い支援を与えていきたいものである。

## 会費納入 のお願い

昭和五十五年度の会費未納の方は納入をお願い致します。年度毎に一、〇〇〇円です。納入状況を記入したカードを同封致しましたので御確認下さい。なお、納入の際には振替用紙の通紙に「卒業」の欄に「卒業」と記入して下さい。出費多端の節回しと「何年度分会費」を誠に恐縮に存じますが、納入明記いただければ幸いです。ご協力のほどお願い申し上げます。振替番号 名古屋 59345

## 計報

和田不二夫氏(大4、昭和三十一年三月卒)は去る四月十九日逝去されました。ここに慎んで哀悼をお祈りいたします。

## 大19卒 東海化学工業会賞に輝く 浅尾氏

(東海化学工業会)を受賞されました。近年カチオン性高分子化合物が各方面で注目され、その用途開発も活発に行われるようになってきました。浅尾氏はデンプン、セルロース、ポリビニルアルコール等の高分子物質に第四級アンモニウム塩を導入できるカチオン化剤の製造技術を確立すると共に、水溶液の形で商品化することに成功しました。今後の一層のご活躍を期待します。

**三翠化学会記念事業 基金募金決算報告**  
 昭和55年7月31日

●支出	振替手数料	20,790
	事務費	20,070
	通信費	132,150
	印刷費	51,370
	会議費	61,400
	計	285,780
●収入	心算総額	3,123,000円
	預金利息	70,796
	計	3,193,796
	◆差引残高	2,908,016

卒業年次	卒業者	応募者	クラス目標額	応募額	達成率
専1	41	36	250,100	524,000	210%
専2	45	35	265,500	317,000	119%
専3	30	25	171,000	179,000	105%
大1	24	20	136,800	200,000	146%
大2	23	17	128,800	131,000	102%
大3	20	17	136,800	187,000	137%
大4	29	25	156,600	156,000	100%
大5	30	25	140,000	76,500	55%
大6	29	22	139,200	123,000	88%
大7	26	21	119,600	100,000	84%
大8	23	18	101,200	84,000	83%
大9	29	14	121,800	80,000	66%
大10	28	18	112,000	73,000	65%
大11	31	22	120,900	70,000	58%
大12	31	23	114,700	87,000	76%
大13	30	15	105,000	62,500	59%
大14	28	20	92,400	83,000	90%
大15	27	20	83,700	69,000	82%
大16	29	24	84,100	85,000	101%
大17	27	23	72,900	75,000	103%
大18	26	13	65,000	57,000	88%
大19	33	20	75,900	45,000	59%
大20	26	19	54,600	95,000	174%
大21	28	11	53,200	23,000	43%
大22	31	15	52,700	28,000	53%
大23	28	15	42,000	36,000	86%
大24	30	21	36,000	28,000	78%
大25	32	14	35,200	26,000	74%
大26	29	13	29,000	20,000	69%
大学院	計	3	3,000	3,000	100%
大学院	計	851名	596名	3,123,000	104.1%

# 基金目標の三百万円を突破

## 記念事業基金制度に596名が募金

### お礼の言葉

会長 岡田芳次郎

例年になく冷夏といわれていますが、いかにおおしむりまうか。昭和四十八年に発足しました私共三翠化学会基金運用規程は、三翠化学会を支援し、三翠化学会の発展・組織強化と在学生会の援助等のため、三翠化学会記念事業基金制度が、昭和五十三年五月二十一日の総会で承認され、ついで同年七月十七日基金委員会を設置し、さらに実行委員会を選び、早速募金活動に入ったのであります。爾来約一年半の期間、基金委員会各位の献身的な努力と会員諸氏のご理解、ご協力のもとに基金は順調に目標額三百〇〇万円を突破することができ、基金事業は滞りなく終了の運びとなりました。これ一重に、会員諸氏のご協力の賜物であり、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

### 「募金事業経過報告」

昭和五十三年の募金事業経過については、すでに本報第一号で報告したので割愛致します。一、五十四・四・一 三翠化学第一号で基金募金に関する中間報告を掲載。二、五十四・五・二十七 昭和五十四年度総会で、基金募金状況の中間報告一約一七五万円（三九〇名）が、六月と十一月を重点的な募金月間とし、積極的に募金活動を開発することとした。

### 「基金運用委員会報告」

(一)経過報告  
 一、五十三・九・二十九 基金委員会が基金運用委員会の組織を決定した。二、五十三・十二・二十二 基金運用委員会の組織を決定し、基金運用委員会の職務について予備的な検討をした。三、五十四・三・十五 役員・評議員会を基金運用委員会の組織を決定し、基金運用委員会の職務について予備的な検討をした。三、五十四・三・十五 役員・評議員会を基金運用委員会の組織を決定し、基金運用委員会の職務について予備的な検討をした。

### 山内雄治 (大21回卒)

#### 台糖ファイザー(株)

台糖ファイザーは昭和三十一年に設立された資本五九〇〇万円の企業で、工場は愛知知多半島の武豊町にあり、現在、各工場と称されています。...

# 職場紹介

今年の夏は、とりわけ涼しい夏のように感じますが、わが松浦製薬は、生薬(しょうやく)を抽出する蒸気と、額に汗し、夏の暑さをしのいでいます。...

### 松浦製薬株式会社

田中 大 二 (大24回卒)

放線菌、カビなどの対象とする微生物を分離することに始まり、それらの培養液のバイオアッセイの結果選ばれた抗生物質を単離精製し動物試験を繰り返して篩分けられた有望な物質をさらに詳しく詳細に検討した上で新規かつ有効であると判断されれば特許を申請するというのが一般的なパターンですが、現在、各工場の研究室にスクリーニング法を採用してスクリーニングの効率を上げています。...

放線菌、カビなどの対象とする微生物を分離することに始まり、それらの培養液のバイオアッセイの結果選ばれた抗生物質を単離精製し動物試験を繰り返して篩分けられた有望な物質をさらに詳しく詳細に検討した上で新規かつ有効であると判断されれば特許を申請するというのが一般的なパターンですが、現在、各工場の研究室にスクリーニング法を採用してスクリーニングの効率を上げています。...

# 社会人一年生

## 新社会人より一報

大28回卒 関小田 弘

早くも大学を卒業してから半年が過ぎようとしております。現在、食品添加物の総合メーカーの三栄化学工業KKに勤めております。この会社は大阪のキタの十三より阪急宝塚線で二つ目の駅より徒歩で十分の所にあります。学生時代、広大なキャンパスを過したことが影響しているのか、朝の通勤時のラッシュには殊の外、閉口するばかりです。

さて仕事の方ですが、現在は工場の現場研修が終了したところですので。この益明けより、香料研究室に配属されております。

検査、研究を行っている所に配属されました。

社会人になって一番強く感じた事は、学生時代は何んと自由な生活ができるのだろうかという事です。社会人は、会社に対しては責任を負っています。その為、時間や生活が束縛されることもあり、学生時代は短い期間ですが、一生の中で光り輝くものとする為、悔いの残らないよう一日一日を大切に過ごしてまいりたい。そして社会に出た時に、知らず知らず蓄積されて来たパワーを肌で感ずることが出来るでしょう。

「司法書士」として

大14回卒 田中 幹夫

「司法書士」という職業を御存知でしょうか。その昔は「代書」と呼ばれ、最近では「町の法律家」と言われている商売です。土地を購入したり、家を建てたりした人、またその等諸々の事務が競合して、百八に設立登記をしなければならぬ

置き、そこで生活の糧を得ようと思いたって、はや六年を経過した。ここで司法書士の内容を紹介しよう。

一、不動産登記  
土地を買ったり、建物を建てたりすると登記がなされ、権利証が手渡される。このような不動産に関する登記全般の申請をする。

二、商業登記  
会社を設立する場合、法務局に設立登記をしなければならぬ

い。また設立後変更があった場合、その都度変更の登記をしなければならぬ。このような会社の登記をする。

三、訴訟書類作成  
裁判をするときの大変な費用がかかると思われている人が沢山いるが、裁判所へ納める費用は微々たるものであり、大部分は弁護士費用である。だから簡易な裁判は自分でした方が得策でありこの際裁判所へ提出する書類を作成する。

かくの如く、法律全般に亘つた仕事をしているのであるが、中でも主となる仕事は不動産登記である。世の中、不動産を中心に動いているのではないかと錯覚させられるような今日この頃であるが、それだけに重要な些細と思われ失敗が大きな権利の変動を伴うこともあり、非常に神経を使わなければならない。

そうは言っても人間である以上失敗もあり、次の機会にでも失敗談を報告したいと思つて

農芸化学科にも「六成会」なるものが存在し、教官と学生との交流を深める機会を与えてくれます。五月には講座、研究施設、それに学年対抗のソフトボール大会が催されましたが、我が農芸チームは新人スカウトが思わしくなく初戦敗退となってしまいました。また六月には多数の教官、院生、専攻生の参加のもとオリエンテーションが行われ、丸山公園での打上げピルパーティーで幕を閉じています。

一方研究室の行事ですが、五月に新人歓迎会が催され、ここで正式に中島先生に紹介していただき、農芸メンバーとの交際が始まりました。ピルで気持ちをほぐしたのち、二次会、三次会と夜明けまでメンバーとの友情を深めました。またこの間の研究室の旅行があり、志賀高原、草津温泉の旅を満喫してきました。今年中は中島先生最後の年ということもあって三重から熊沢先生、信州から清水、富田、入江先生も加わり総勢約三〇名で盛大に行なわれました。今では昼食の度に写真集をあげ、賑やかな旅行の反省会を行なっています。この秋にはハイキング、年末には忘年会が予定されています。

今年は何年になく涼しく、遠くに比較山が望まれる窓からは快風が流れていきます。残る六ヶ月余りを京都の自然を味わいつつ、この思われた環境の中で仕事を進めていきたいと思つていきます。

助力もあり頑張っております。微生物教室の古女房と言われる加藤嬢も仕事の虫であり、横江君も地道に研究を続け、またZie Medical Journalの編集を任されている浜地嬢、皆忙しい毎日です。

病理学教室に医師でない院生がいるのは、珍しいことだそうですが、病理学の伊豆津教授と嶋林、高橋両教授とが前々からのお知り合い、ご友人であること、伊豆津教授のテーマ、お人柄に引かれたこともあり、研究を手伝わせていただくことになった次第です。私は元来変わり種で、基礎工(阪大)から本学農芸化学生物化学研究室で修士を終え、現在に至っています。よく、病理について平気かと聞かれますが、お医者さんの友人が多く、津高から医学部へ入った友人とも再会したり、また色々耳聞する機会も多く、結構楽しくやっています。病理は朝早く、夜は不夜城と言われ、私以外の先生方は、研究の他に病理医としての仕事も山積し、はた目にも忙しいのが分かります。時に、そのタフネスにも感じています。研究テーマも多く、医学部長でもある武田教授中心のDNAリペアー、伊豆津教授中心の細胞分裂、その他にも免疫、制御、染色体、コラーゲン等々、注目すべき最先端の仕事と云って良いと思います。それに教官の公的なつながりも同様に私的なつながりもなく、野球旅行、ドライブ、ボーリング、花見等々、皆さんと一緒にいるのが大好きなんです。ゼミが毎日あること、若い者程感服していること、皆が俺こそプロだと思つていることこの教室の特徴かも知れません。

我々五人の結束も固く、一つのファミリーと云って良いものと思つています。農芸化学の先生、先輩、院生、学生の皆様、医学部の基礎校舎、図書館へ来られた際は、誰かをかまえて、しっかりと動いているか声をかけて下さるようお願いいたします。

## オリンピックの年毎に集う

### 大学9回卒クラス会

私達のクラスは卒業以来四年に一回、オリンピック開催の年にクラス会を行って居ります。今回は卒業二十周年を兼ねて

大9回卒クラス会 熱海の藤沢薬品寮にて



大20回卒クラス会 浜名湖畔館山寺にて

幹事は米窪(富士市在住)及び三輪(清水市在住)の両君が担当し、五月十一日の両日にかけて、米窪幹事の会社の保養所である藤沢薬品寮熱田寮を借り切って(どうも当日他の社員の手伝いでキャンセルされたとの話あり……)津から

出向して下さいました奈良先生を囲んで開催しました。豪華な夕食の後、或る者は麻雀に、また或る者は談話の一夜を過ごすことができました。参加人員は当初一九名の予定でしたが、子供さんの骨折や早退の山口両君とその近辺の服が出て、結局一五名写真通りの部員が指名されました。場所は豊橋近辺、開催年次は次のオリンピック開催の年であります。十一月は朝食後、寮のすぐ上にある伊豆山神社を参拝する者が多く、流れ解散となりました。

翌日は、ホテルの近くにある浜松フラワーセンターに出かけ植物鑑賞を行ない、昼食を共にし、現地解散となった。

次回は、今年中に津在住の幹事を幹事として秋ごろ開くことになり、現地の輪談会をそれにセミナーが組み込まれており、この他に有志で構造一活性相関勉強会、ランチセミナー、構造決定演習、独語読解会等多様な活動を行なっています。従って各種輪談会、セミナーの合間をぬって実験せねばならず、また良きにつけ悪きにつけ、種々の誘惑を考

冷夏の京都より  
大20回卒 小山 司朗

十カ月の内地研究員としての生活も既に四ヶ月を経過し、新しい環境に慣れたところだ。五月一日より御世話になっておる京都大学農学部農芸化学科農薬化学講座、通称中島研を簡単に紹介すると、中島教授、藤田助教、北原、西村、西岡現(在米留学中)、助手を始めとして修士二回生四名、修士一回生三名、専攻生六名それに事務官の吉田さんで構成され、主として昆虫に対する生理活性物質の構造一活性相関の研究を行なっています。このメンバーの中に修士二回生の服部君(大27回)も含まれておられるので、先生活を加えて夜おそくまで、学生時代の思い出、現在の仕事について情報交換、先生からは、今の大学の状態等話し合いに熱心な修士二回生一名、院生一名で農薬の代謝研究を行なっています。

農芸化学科にも「六成会」なるものが存在し、教官と学生との交流を深める機会を与えてくれます。五月には講座、研究施設、それに学年対抗のソフトボール大会が催されましたが、我が農芸チームは新人スカウトが思わしくなく初戦敗退となってしまいました。また六月には多数の教官、院生、専攻生の参加のもとオリエンテーションが行われ、丸山公園での打上げピルパーティーで幕を閉じています。

八回目の同窓会を館山寺で

大学20回卒クラス会

私達20回生は、卒業以来毎年、西、東そして中央と幹事の交代制により、同窓会を開くこと八回を数えることとなりまし

さて、今回は昭和五十四年度分として、時期がだいぶ遅くな

大20回卒クラス会 浜名湖畔館山寺にて

出向して下さいました奈良先生を囲んで開催しました。豪華な夕食の後、或る者は麻雀に、また或る者は談話の一夜を過ごすことができました。参加人員は当初一九名の予定でしたが、子供さんの骨折や早退の山口両君とその近辺の服が出て、結局一五名写真通りの部員が指名されました。場所は豊橋近辺、開催年次は次のオリンピック開催の年であります。十一月は朝食後、寮のすぐ上にある伊豆山神社を参拝する者が多く、流れ解散となりました。

翌日は、ホテルの近くにある浜松フラワーセンターに出かけ植物鑑賞を行ない、昼食を共にし、現地解散となった。

次回は、今年中に津在住の幹事を幹事として秋ごろ開くことになり、現地の輪談会をそれにセミナーが組み込まれており、この他に有志で構造一活性相関勉強会、ランチセミナー、構造決定演習、独語読解会等多様な活動を行なっています。従って各種輪談会、セミナーの合間をぬって実験せねばならず、また良きにつけ悪きにつけ、種々の誘惑を考

農芸化学OB三重大

医学部の五人

院10回 駒田 洋

皆様お元気ですか、農化OBで現在、本学医学部職員、院生五人からご挨拶申し上げます。

五人は田中(生化学助手)ゴッドファーザーを中心に、年の位を取られ、私も来年一月末の論文締め切りが迫り、浜地嬢の

助力もあり頑張っております。微生物教室の古女房と言われる加藤嬢も仕事の虫であり、横江君も地道に研究を続け、またZie Medical Journalの編集を任されている浜地嬢、皆忙しい毎日です。

病理学教室に医師でない院生がいるのは、珍しいことだそうですが、病理学の伊豆津教授と嶋林、高橋両教授とが前々からのお知り合い、ご友人であること、伊豆津教授のテーマ、お人柄に引かれたこともあり、研究を手伝わせていただくことになった次第です。私は元来変わり種で、基礎工(阪大)から本学農芸化学生物化学研究室で修士を終え、現在に至っています。よく、病理について平気かと聞かれますが、お医者さんの友人が多く、津高から医学部へ入った友人とも再会したり、また色々耳聞する機会も多く、結構楽しくやっています。病理は朝早く、夜は不夜城と言われ、私以外の先生方は、研究の他に病理医としての仕事も山積し、はた目にも忙しいのが分かります。時に、そのタフネスにも感じています。研究テーマも多く、医学部長でもある武田教授中心のDNAリペアー、伊豆津教授中心の細胞分裂、その他にも免疫、制御、染色体、コラーゲン等々、注目すべき最先端の仕事と云って良いと思います。それに教官の公的なつながりも同様に私的なつながりもなく、野球旅行、ドライブ、ボーリング、花見等々、皆さんと一緒にいるのが大好きなんです。ゼミが毎日あること、若い者程感服していること、皆が俺こそプロだと思つていることこの教室の特徴かも知れません。

我々五人の結束も固く、一つのファミリーと云って良いものと思つています。農芸化学の先生、先輩、院生、学生の皆様、医学部の基礎校舎、図書館へ来られた際は、誰かをかまえて、しっかりと動いているか声をかけて下さるようお願いいたします。

私のアメリカ留学記 ②

実感としての米国生活

大学17回卒 田口寛

時計は、アメリカではセイコーが一番と思われており、オメガなど問題にしておきません。...

本日は会社とは思われないらしい。日本の会社なら「トヨタ」か「ヤマハ」とか、場合によっては「Geissha」や「Sakurayaki」なんて会社名が日本の会社だと思っ...

いるから当然、上野動物園のパンダが死んだこと、それにポールマックカート二が日本公演のために入国しようとして麻薬所持が見つかり、逮捕されたこと...

本人にとつてうらやましい限りです。日本人は働くために生きていて、アメリカ人は遊ぶために生きていて、その差が大きい...

たことがありません。大きいライフルは、撃った時の衝撃が大きい、鎖骨のあたりがとてつもなく痛く、五発以上撃てて撃てません...

しかも同じ研究室に、さらに一人、学生でB君がおり(こちらでは、ありふれた名前)、電話で「Bobいますか」と言われても、アメリカへ来た直後はB君がRobertと同一とは知らず、...

研究室紹介

醸酵学研究室

創設以来すでに三〇年以上の歴史をもつ醸酵研究室であるが、その間に三回移転し、ちょうど三つの節が出来て、時代の流れをそれぞれ映しているようにある。

昭和三十年から第二期に入り、三翠寮のすぐ西側に鉄筋コンクリート二階建が新築され、その二階に移った。...

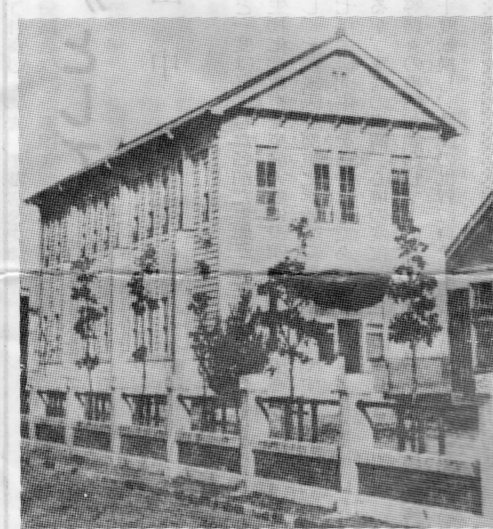
初代の田中教授は昭和三十五年に定年退職され、二代目には松嶋先生が就任された。...

最近では駅伝競走に毎年参加し元氣なところを見せています。現在の研究室のテーマは、主として二項目あり、一つはかびの蛋白質分解素およびその阻害物質に関する研究...

アルカリ性菌、耐酸性菌などを対称菌として取扱い、これらの菌の未知の隠れた性質をひき出して役立たせようとしています。

最後に、私がアメリカに留学することにより、嶋林先生始め、農芸化学科の皆様、農学部の皆様、および関係各位に大へんご迷惑をお掛けしておりますことを、心からお詫びいたします。

昭和五十五年二月 アメリカ合衆国 オクラホマ州にて 田口寛



醸酵学研究室の近況を申し上げると、松嶋先生は赤目から遠路はるばる通勤され、ますます精力的に研究を続け、例のテニスも、少しミミ味のオナチを挿すながらも、俊敏さが衰えていないのは驚かされます。嶋田先生は、車で通勤するようになってから脚腰が極端に弱くなったことを嘆いていますが、卓球にかけては学生並みのレベルを保っています。伊藤昌子さんは相変らずスマートで、華道のリーダー役をしていますが、...